

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 5 月 1 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2013

課題番号：22330146

研究課題名(和文) 記録映画アーカイブに見る戦後日本イメージの形成と変容

研究課題名(英文) Images of Postwar Japan in Documentary Film Archives

研究代表者

丹羽 美之(NIWA, YOSHIYUKI)

東京大学・大学院情報学環・准教授

研究者番号：00366824

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,500,000円、(間接経費) 4,050,000円

研究成果の概要(和文)：岩波映画製作所が製作した約4千本のフィルム原版をはじめ、合計で約1万本の記録映画を収集・保存した。このうち約6千本分のデータベース化を行い、検索システムをウェブ上で公開した。また収集・保存した記録映画を活用して、戦後日本イメージについて討論する全10回のシンポジウムやワークショップ(研究上映会)を開催した。その成果は『記録映画アーカイブ』シリーズとして東京大学出版会より出版した。さらに、収集した記録映画を活用して長編記録映画『夢と憂鬱～吉野馨治と岩波映画～』を製作・公開した。同映画は平成23年度文化庁文化記録映画賞優秀賞を受賞したほか、各地の映画祭で上映された。

研究成果の概要(英文)：We collected and preserved approximately 10,000 documentary films, including 4,000 negative films produced by Iwanami Productions. Among 6,000 of these, we compiled a database and opened up an online search system. In addition, we also held symposiums and workshops (screening seminars) for ten times in total, in order to discuss the image of the postwar Japan by utilizing the documentary films, which we collected and preserved. In result, we have published a series of books, titled "Documentary Film Archives" from University of Tokyo Press. Moreover, we produced and released a feature length documentary film, "Dream & Melancholy: Yoshino Keiji and Iwanami Productions", using our collection of documentary films. This feature film earned an award for excellence in the Documentary Film Category, Film Awards 2011 of the Agency for Cultural Affairs, Government of Japan, and it was screened on various film festivals.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：記録映画 産業PR映画 科学映画 ドキュメンタリー アーカイブ 映画史 メディア史 戦後日本

1. 研究開始当初の背景

20世紀を通じて、膨大な数の記録映画が同時代を記録してきた。日本でもこれまで数多くの記録映画が作られてきた。これらは当時の産業、科学技術、社会、文化を記録した貴重な映像資料であり、一度失われてしまえば二度と撮ることのできない公共の財産である。しかしいま製作会社やスポンサー企業の倒産・解散により、これらのフィルムの散逸や廃棄がはじまっている。消失の危機にある記録映画を体系的に収集・保存し、公共の財産として研究や教育に幅広く活用できるようにするための制度・環境整備が求められている。

2. 研究の目的

2009年、戦後日本を代表する記録映画会社、岩波映画製作所が製作した約4000本のフィルム原版が、東京大学大学院情報学環と東京藝術大学大学院映像研究科に寄贈された。これらのフィルムには、戦後復興期から高度経済成長期にいたる、日本の産業、科学技術、社会、文化が克明に記録されている。本研究は、この岩波映画コレクションを中心に、戦後日本で製作された数多くの記録映画をアーカイブ化して、そこに描かれた戦後日本のイメージを明らかにしようとするものである。散逸や消失の危機にある記録映画を体系的にアーカイブ化し、研究・教育のためのデータベースを作成するとともに、それらを利用・活用して戦後日本をめぐるイメージの政治を学際的な観点から研究する。

3. 研究の方法

本研究は、記録映画のアーカイブ化（収集・保存）と、それをういた戦後日本イメージの分析（利用・活用）を一体的に進めていく点に、大きな特色がある。記録映画のアーカイブ化に関しては、記録映画保存センターや東京国立近代美術館フィルムセンターと協力しながら、記録映画のフィルム原版の収集・保存活動に取り組んだ。記録映画アーカイブを活用した戦後日本イメージの研究に関しては、年間3回のワークショップ（研究上映会）をベースにして、学際的に研究を進めた。

4. 研究成果

岩波映画製作所が製作した約4千本のフィルム原版をはじめ、合計で約1万本の記録映画を収集・保存した。このうち約6千本分のデータベース化を行い、検索システムをウェブ上で公開した。また収集・保存した記録映画を活用して、戦後日本イメージについて討論する全10回のシンポジウムやワークショップ（研究上映会）を開催した。その成果は

丹羽美之・吉見俊哉編『記録映画アーカイブ1 岩波映画の1億フレーム』（2012、東京大学出版会）、同編『記録映画アーカイブ2 戦後復興から高度成長へ』（2014、東京大学出版会）として出版した。さらに、収集した記録映画を活用して長編記録映画『夢と憂鬱～吉野馨治と岩波映画～』（監督：桂俊太郎、企画・製作：記録映画『夢と憂鬱～吉野馨治と岩波映画～』製作委員会、122分、2011）を製作・公開した。同映画は平成23年度文化庁文化記録映画賞優秀賞を受賞したほか、東京国際映画祭や山形国際ドキュメンタリー映画祭など、各地の映画祭で上映された。参考として、研究期間内に開催したシンポジウム、ワークショップの概要を以下に記す。

* 「高度経済成長と地域イメージ 岩波映画『日本発見』を見る」(2010/10/11、東大・福武ホール)

上映作品：『日本発見 東京都（未放送版）』（岩波映画製作所、演出：土本典昭、1962年、29分）『日本発見 東京都』（岩波映画製作所、演出：各務洋一、1962年、29分）『日本発見 群馬県（未放送版）』（岩波映画製作所、演出：黒木和雄、1962年、29分）『日本発見 群馬県』（岩波映画製作所、演出：羽仁進、1962年、29分）
登壇者：吉原順平（元岩波映画製作所）、若林幹夫（早稲田大学）、筒井武文（東京藝術大学）

* 「社会科映画と日本の民主化 発見された常総市コレクション」(2011/3/6、東大・福武ホール)

上映作品：『わが街の出来事』（シュウタグチプロダクション、監督：岩下正美、1950年、14分）『はえのいない町』（岩波映画製作所、演出：村治夫、1950年、12分）『伝染病とのたたかい』（都映画社、監督：松岡佑、1950年、12分）『町と下水』（岩波映画製作所、脚本・演出：羽仁進、1953年、21分）
登壇者：藤瀬季彦（元岩波映画製作所）、グレゴリー・フルーグフェルダー（コロンビア大学）、中村秀之（立教大学）

* 「長編記録映画『夢と憂鬱 吉野馨治と岩波映画』完成記念上映会」(2011/6/19、東大・福武ホール)

上映作品：『夢と憂鬱～吉野馨治と岩波映画』（企画・製作：記録映画『夢と憂鬱～吉野馨治と岩波映画～』製作委員会、監督：桂俊太郎、2011年、122分）
登壇者：桂俊太郎（映画監督）、村山英世（記録映画保存センター）、中村秀之（立教大学）、筒井武文（東京藝術大学）、鳥羽耕史（早稲田大学）、丹羽美之（東京大学）

* 「原子力発電と安全神話 原発PR映画を見る」(2011/10/30、東大・福武ホール)
上映作品：『東海発電所の建設記録』（岩波映

画製作所、演出：矢部正男、撮影：小村静夫
他、1966年、46分）『原子力発電と地震』（鹿
島映画社、1976年、20分）『海岸線に立つ
日本の原子力発電所』（岩波映画製作所、1987
年、27分）『いま原子力発電は・・・』（岩波
映画製作所、演出：羽田澄子、撮影：西尾清、
1976年、24分）

登壇者：羽田澄子（映画監督）、藤本陽一（早
稲田大学名誉教授）、吉見俊哉（東京大学）

* 「空に、地下にのびる都市 東京オリンピ
ック前の建設記録映画」（2012/6/17、東大・
福武ホール）

上映作品：『東京タワーの建設記録』（マツオ
カプロダクション、1959年、33分）『空に
のびる街』（岩波映画製作所、1963年、30分）
『銀座の地下を掘る』（日本映画新社、1964
年、36分）

登壇者：西村健治（元日本映画新社）、伊藤
滋（東京大学名誉教授）、鳥羽耕史（早稲田
大学）

* 「フィルムを捨てないで 記録映画の保存
と活用」（2013/1/26、東大・福武ホール）

上映作品：『東京見物～大正6年の東京～』（製
作：不明、1917年、16分）『近郊武蔵野』（製
作：不明、1940年頃、12分）『路地のある
街』（製作：岩波映画製作所、演出：京極高
英、1956年、11分）『This is Tokyo』（製
作：岩波映画製作所、演出：時枝俊江、1961
年、28分）

登壇者：村山英世（記録映画保存センター）、
福井健策（弁護士）、山元裕子（弁護士）、と
ちぎあきら（国立近代美術館フォルムセンタ
ー）、上妻博明（元衆議院法制局参事）

* 「戦後史の切断面（1）過疎・開発・公害
の記録」（2013/7/7、東大・福武ホール）

上映作品：『忘れられた土地』（フィルムセン
ター提供、監督：野田真吉、1958年、30分）
『水俣の子は生きている』（制作：日本テレ
ビ、演出：土本典昭、1965年、25分）『汚
水カルテ』（制作：岩波映画製作所・放送番
組センター、演出：神馬玄佐雄、1977年、24
分）

登壇者：四宮鉄男（映像作家）、栗原彬（立
教大学名誉教授）、角田拓也（イエール大学
大学院）

* 「戦後史の切断面（2）1968・映像のコミ
ューン」（2013/11/24、東大・福武ホール）

上映作品：ニュース映画で見る1969年1月
東大安田講堂の攻防（1968-69年、12分）『お
きなわ 日本1968』（製作：岩波映画労働組
合1968年、8分）『死者よ来たりて我が退路
を断て』（製作：グループびじょん、1969年、
64分）『'69・6・15』（製作：東大全共闘映画
班・岩波映画労働組合、1969年、10分）『地
下広場』（製作：広場の一味、1969年、85分）
登壇者：井坂能行（元岩波映画製作所）、北

村隆子（元日本映画新社）、長崎浩（評論家）、
筒井武文（東京藝術大学）

* 「戦後史の切断面（3）万博とアヴァンギ
ャルド」（2013/3/1、東大・福武ホール）

上映作品：ニュース映画で見る日本万博
（1970年、10分）『希望 光と人間たち』（岩
波映画製作所、演出：藤久真彦、1970年、18
分）『1日240時間』（監督：勅使河原宏、脚
本：安部公房、1970年、30分）『スペース・
プロジェクト・アコ』（監督：松本俊夫、
1970年、15分）

登壇者：吉原順平（元岩波映画製作所）、友
田義行（信州大学）、筒井武文（東京藝術大
学）、暮沢剛巳（東京工科大学）

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者に
は下線）

〔雑誌論文〕（計10件）

丹羽美之、交差する映像と学術 映画・テ
レビ・デジタルメディア、日本都市社会学年
報、査読無、第29号、2011、30-45

吉見俊哉、文化のフローから創造的リサイ
クルへ、GALAC、査読無、第156号、2010、
24-27

〔学会発表〕（計10件）

丹羽美之、映像の学術的な利用に広がり
について、日本都市社会学会（2010年9月12
日、日本大学文理学部）

丹羽美之、戦後記録映画のなかの女性たち、
京都大学グローバルCOEプログラム 親密圏
と公共圏の再編成をめざすアジア拠点コア
プロジェクト成果公開セミナー（2012年6月
7日、京都大学文学部）

〔図書〕（計12件）

丹羽美之・吉見俊哉編、東京大学出版会、
記録映画アーカイブ1 岩波映画の1億フレ
ーム、2012、348

丹羽美之・吉見俊哉編、東京大学出版会、
記録映画アーカイブ2 戦後復興から高度成
長へ、2014（近刊） ページ数未定

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.kirokueiga-archive.com>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

丹羽 美之 (NIWA YOSHIYUKI)

東京大学・大学院情報学環・准教授

研究者番号：00366824

(2) 研究分担者

吉見 俊哉 (YOSHIMI SYUNYA)

東京大学・大学院情報学環・准教授

研究者番号：40201040

筒井武文 (TSUTSUI TAKEFUMI)

東京藝術大学・大学院映像研究科・教授

研究者番号：70420297

中村秀之 (NAKAMURA HIDEYUKI)

立教大学・現代心理学部・教授

研究者番号：00299025

鳥羽耕史 (TOBA KOJI)

早稲田大学・文学学術院・教授

研究者番号：90346586